

会議名称：令和元年度6月期古賀市社会教育委員の会議

日時：令和元年6月27日（木） 19時～21時30分

場所：リーパスプラザこが 交流館103

主な議題：①第2回「第6回古賀市生涯学習笑顔のつどい」実行委員会

傍聴者数：なし

出席者：松本委員、平島委員、角森委員、國友委員、村山委員

井浦委員、橋爪委員、丸井委員、秋山委員

（以上委員9名）

青谷教育部長、中村生涯学習推進課長、村上参事補佐、小嶋、森田

欠席者：なし

事務局：生涯学習推進課社会教育振興係

配布資料：レジュメ

会議内容：以下のとおり

松本議長：

皆さんこんばんは。第2回笑顔のつどい実行委員会を始めます。本日は公私共に忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。本日は、最初に第1回実行委員会の内容を確認し、その後分科会のあり方を中心に協議を進めたいと考えております。参加団体と担当委員による協議が終了した後に、社会教育委員の会議を実施いたします。では、事務局から連絡事項をお願いいたします。

事務局：

実行委員会全体での集まりについてですが、今回の会議が最後の場になるかと思っております。その後は各分科会に分かれて、担当委員の方と詳細を決めていただくということになります。本日中に決定できない部分も出てくると思いますが、よりよい笑顔のつどいにするために、結論を急がずに一歩ずつ確実に進めたらよいなと考えております。

松本議長：

それでは内容に移ります。第6回生涯学習笑顔のつどいについて資料を作成しております。

（松本議長よりレジュメの内容について説明。また、事前協議のもと決定したつどいの新テーマについて報告。）

事務局：

8月31日の前日リハーサルについてですが、13時から22時で交流館の各部屋を予約しております。ですので、当日使用する備品等がある場合には前日より設置していただくことが可能です。

松本議長：

本日は分科会に分かれる前に、全体会で発表いただく加藤さんから、発表内容の解説をしていただきます。問題提起の内容を全体で共有した後に、分科会ごとに分かれての協議に移ります。それでは加藤さんよろしく願いいたします。

加藤さん：

それでは、子どもの生活満足度と地域とのかかわり～「子どものQOL尺度」の分析を通して～というテーマで発表させていただきます。

最初に自己紹介をさせていただきます。私は星の子文庫という地域文庫を主催しております。活動のきっかけとしては、25年前に自宅で家庭文庫を始めました。それ以来、活動では3本の柱を中心に実施しております。毎週金曜日の夕方に集会所で実施している文庫活動、昔話や民話の良さを子どもたちに伝えたいという思いから始めた人形劇や影絵などの製作を行っており、最終的には地域の各所で発表を行っています。このような活動や学校の図書館司書としての活動する中で、地域で見る子どもの姿と学校で子どもから悲しい声を聴くことが少なからずありました。これが本研究を始めるきっかけとなりました。

研究目的としては、自尊感情を含めた子どもの主観的な生活満足度および地域との活動の関連性を分析して子どもの生活の実態を明らかにしようと考えました。

ここで、キーワードになった自尊感情という言葉に触れていきたいと思います。自尊感情という言葉については、いろいろな考え方がございますが、基本的自尊感情と社会的自尊感情の二つに大別されるという考え方があります。私もこの説を支持して今回の研究を行いました。基本的自尊感情については good enough といわれます。これは比較によるものではなく、自分の存在は絶対的な唯一無二の存在であると思うことができる感情です。一方で社会的自尊感情は very good と呼ばれます。これは他者との比較の中での優越性であり、社会の中での自分に対する感情です。

では、ここからは具体的な調査の内容に入ります。調査対象は古賀市内の公立小学校の6年生全員564名を対象としました。調査時期は2017年の7月に各小学校の学級内で実施しました。調査内容についてですが、1点目は子どものQOL (Quality of life) について調査しております。もう1点は地域での過ごし方および地域活動への参加の状況やその意欲、また、放課後の遊びや居場所について聞きました。

結果に移ります。子どものQOL尺度について全国平均との比較の図を示しております。古賀市の結果としましては全国平均を上回る結果となっており、特に自尊感情、友達、学校という項目が顕著に高い数値を出していることがわかります。ここで着目していただきたいのは、全国平均よりも高い値を示したという事実ではなく、全国的にも古賀市としても、自尊感情という項目は低い値を示しており、同じ傾向にあるということです。次に、古賀市の小学生をQOLの得点に応じて、三つのグループに分類いたしました。ここでは低QOL群、中QOL群、高QOL群と分類しております。この3つのグループで比較を行った場合、自尊感情の領域で最も大きく差が出る結果となりました。また、QOL尺度の6領域について、領域同士の相関を分析したところ、友達と自尊感情、身体的健康と友達の相関が高いことがわかりました。また、ここで友達という領域がどの領域とも相関が高かったことを付け加えさせていただきます。

次に地域活動の調査結果です。放課後の過ごし方ですが、これを先ほどの低QOL群、中QOL群、高QOL群に分けて調査を行いました。左側の図をご覧ください。放課後一人で過ごす子どもは低QOL群の子どもに多く、友達と過ごしているかどうかという項目で低QOL群と高QOL群の子どもたちの間で大きな差が出ております。右側の図をご覧ください。放課後過ごす場所ですが、やはり低QOL群の子どもたちは自宅で過ごしていることが多いのがわかります。それに対して、高QOL群の子どもたちは外で過ごしている時間が多いと答えた数が多くなっています。また、高QOL群の子どもたちは習いごとで外に出ている機会も多くなっているようです。この結果からわかるように、高QOL群の子どもたちはどの領域においても高い値を示しています。その一方で、低QOL群の子どもたちは自宅以外の場所で過ごすことが総じて低いことがわかります。

次に地域の人とのかかわりや、地域活動の参加について結果をまとめました。これについても先程と同様の結果が見て取れますが、最も大きな差が生じた領域は地域の人に褒められるという部分でした。そして右の図に移ります。子どもたちにどういった地域の活動へ参加しているかを調査しました。この図の左側に示しております尺度が非常に小さいことからわかるかとは思いますが、実際はほとんど参加していないというのが現状のようです。

次に放課後の遊びの実態と希望の調査結果です。まず実態ですが、低QOL群の子どもたちは平日の放課後にボール遊び、鬼ごっこ、自転車など、自然体験等、屋外での遊びの参加頻度が低く、のんびりする、ゲーム、テレビ、屋内で、ひとりでもしくは少人数で過ごす内容が多いのが特徴的です。これは先の放課後の遊び場所や誰と過ごすか、の結果とも関連していることがわかります。次に希望を調査しました。自由な1日があったらあなたは何がしたいですかという質問をしたところ、友だちと遊ぶはどの群の子ども達も最も希望が多かったです。特に低QOL群では友だち、ボール遊び等の希望が多くなっています。実態と希望に大きなギャップがあることがわかります。

ここからは考察になりますが、子どものQOLは自尊感情、身体的健康、友達との関係と深く関連しており、地域での過ごし方や地域の人とのかかわりも大きな関連があることが明らかになりました。QOLにプラスに作用していることは屋外での集団遊びや友達と遊ぶこと、地域の人と話をしたり褒められたりすること、また習いごとをすることなどが挙げられます。

調査結果から、異年齢と過ごすことや地域の人とのかかわりが子どもの生活満足度とかかわりがあることがわかりましたが、ソーシャルインクルージョンの原型は地域にあると考えます。子どもは家庭や学校の中で一生過ごすわけではありません。学校内においては等質性や同じようにやることを求められることが多いですが、一般社会はそういうわけではありません。高齢者や年少者、価値観の違う人たちといった異質なものを受け入れて一緒に過ごしていく感覚は、地域の中でこそ育つものではないかと考えております。そこでは自分とは違う、人は自分と違って当然ということを大前提として関係性を築いていく必要があります。そういう意味でも地域の果たす役割は大きいと考えております。また、ぼーっとする時間やのんびりする時間というのは子どもたちにとって非常に重要な時間であると考えておりますが、調査結果からはのんびり過ごすということ自体をマイナスイメージでとらえられているのではないかと感じ取ることができました。今の社会における価値観、そして子どもたち自身がぼーっとする時間やのんびりする時間というものをどのようにとらえているのか、という部分が疑問点として残りました。

次の第2部での分科会の活動にどのようにつながっていくかはこれからの課題かと思います。ご清聴ありがとうございました。

松本議長：

お忙しい中ご準備いただきましてありがとうございました。このような発表をしていただいて、分科会へとつないでいただきます。分科会では参加者の皆さんと近い距離でいろいろな意見交換ができればよいと考えております。それでは今から分科会に分かれての話し合いに移りたいと思います。8時15分を目安に終了していただいて、分科会ごとに解散とさせていただきます。なお、社会教育委員の皆さんに關しましては、その後に引き続き社会教育委員の会議を行います。それではよろしく申し上げます。

(各分科会の協議が終了し、社会教育委員の会議の準備を行う。)

松本議長：

それではただいまから6月社会教育委員の会議を始めます。先程の分科会ごとに協議をしていただきましたが、全体で確認が必要な事項があればお願いいたします。

國友委員：

アンケートの様式について、昨年度とは大きく開催形式が異なるため、変更が必要かと思います。

事務局：

詳細につきましては、次回の社会教育委員の会議の中で協議させていただきたいと考えております。ですので、それまでに記載したい内容についてご提案をいただきますようお願いいたします。

井浦委員：

チラシの配布場所を再度確認させてください。各小・中学校のPTCAには文書の配布を実施するかと思います。保育園・幼稚園への配布はどうしますか。

事務局：

配布いたします。

松本議長：

区長・分館長・分館主事の皆さんへの周知はどうしますか。

事務局：

実施いたします。

平島委員：

福祉会への周知はどうしますか。

秋山委員：

7月17日に視察研修を予定しておりますので、それまでに準備していただければ配布できるかと思えます。民生児童委員さんについては福祉政策係が担当となっておりますが、7月24日が全体の定例会になっているかと思えます。

松本議長：

学校関係者に関しましては7月16日の校長会に出席の上、私が各学校長に依頼します。

それから毎年流していますオープニング映像についてですけど、事務局に作成をお願いしております。笑顔に限らずとも、地域の皆さんが活躍している写真がありましたら事務局まで提出いただきますようお願いいたします。作成に支障をきたさないようにするには、いつごろまでにデータを提出すれば大丈夫ですか。

事務局：

まず、映像自体をどのくらいのボリュームのものに仕上げるかという問題があります。また、今年は実施形式についても昨年までとは大きく異なっております。ですので、どの程度のものを作成すればつどい全体のスケジュールにうまく組み込ませることができるのかという部分を懸念しております。

松本議長：

例年通りの長さでお願いします。

事務局：

ではデータの提出は7月中にお願いいたします。

松本議長：

では、「3、その他」に移ります。まずは各委員よりお願いします。

(國友委員よりおそらのしたでの活動内容について紹介。松本議長よりハマボウまつりの案内。)

次に事務局よりお願いします。

(令和2年度社会教育委員研修会における古賀市の発表について案内。)

松本議長：

では終わりの言葉をお願いします。

角森副議長：

お疲れ様でした。